

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.403

2024(令和6)年1月10日(水)

金権腐敗、国民無視の国会議員に“資格”はありません！

自民党安倍派や二階派などが、政治資金パーティー収入を裏金化していた疑惑が昨年暮から問題になっていますが、こんな腐敗した政治家たちに“改憲”を言う資格は全くありません！

“憲法は押し付けではありません” 前川喜平氏

○今年2024年4月福島市に「公立夜間中学」が県内初で開校されます。これは「福島に公立夜間中学をつくる会」(代表大谷一代さん)の2010年からの運動の成果です。

○元文部科学省事務次官の前川喜平氏は、この「福島駅前自主夜間中学」のボランティア講師として、2011年初めから毎月東京から通って授業を担当されています。

○昨年12月15日の授業終了後、「鈴木安蔵と憲法」のお話をされたので、まとめてみました。



▲福島駅前アオウゼでの自主夜間中学で挨拶される前川喜平氏

鈴木安蔵と憲法

元文部科学事務次官 前川喜平氏

憲法研究会の草案が現在の憲法へ



先ほど話題になっていました。が、憲法学者の鈴木安蔵についてお話しします。



鈴木安蔵

南相馬市小高区出身の鈴木安蔵は「憲法の間接的起草者」と言われています。終戦直後、高野岩三郎や森戸辰男など7人の民間人で組織された憲法研究会の中心となって「憲法草案要綱」を起草しますが、それがGHQに提出され参考にとされて、昭和21年公布の「日本国憲法」が誕生します。

現在、「日本国憲法」はアメリカのGHQから押し付けられた憲法で改憲しなければならない、という意見も強いのですが、それは間違いです。

自由民権運動の自由・民主主義

明治政府は薩摩や長州の武士たち、伊藤博文や山縣有朋らが中心の政治でしたが、一方で当時から全国各地に自由や民主主義の考えは広まっていた。

自由民権運動の歴史をみると、ここ福島の河野広中、土佐(高知)の中江兆民、植木枝盛、

板垣退助などが中心ですが、150年前の1874(明治7)年、板垣退助や後藤象二郎らは藩閥政府に「民撰議院設立の建白書」を提出し、議会の開設を要求します。

さらに全国各地で民主的な内容の憲法案、いわゆる私擬憲法が作られます。鈴木安蔵は、土佐の植木枝盛の「東洋大日本国憲法」などをしっかり研究し大いに参考にして、憲法研究会の「憲法草案要綱」を作成しました。

千葉卓三郎起草の五日市憲法

私擬憲法で注目されるのが「五日市憲法」です。明治の初め、東京都の五日市(現あきるの市)の大地主深沢家では、新しい本を取り寄せて勉強会を開いて民主主義を学んでいました。

仙台藩出身の20代の千葉卓三郎は勸能学校



千葉卓三郎

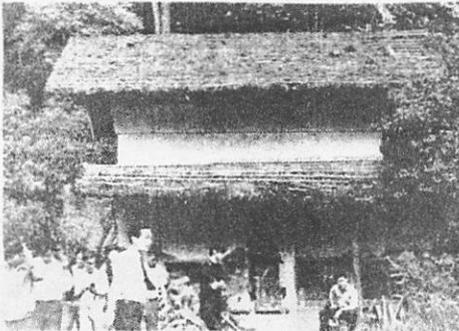
という小学校の先生をしていましたが、学校に国が教員を押し付けてきてもそれを追い返すほど地方自治を確立していました。そして1881(明治14)年に地主の深沢権八や農民たちが研究と討議を重ねて千葉卓三郎が起草したのが、全204条もある「五日市憲法」です。人権に関するものだけでも36条もあり、現憲法と遜色ありません。

<裏面に続く>

＜表の面より＞

土蔵から発見された「五日市憲法」

ところがそれから87年後の1968(昭和43)年になって、東京経済大学の色川大吉教授は学生新井勝紘らとのフィールドワークで、大地主深沢家の土蔵からこの「五日市憲法」を発見します。



1968年、五日市憲法が発見された深沢家の土蔵

欧米の近代的民主主義を学び、条文にしっかり折り込んでいて大変注目されるようになりました。

ですからもう明治時代の初めから日本人は自由や民主主義、主権在民や人権の大切さをしっかり学んでいて、民主的な日本を目指していたのです。

美智子上皇后は五日市憲法を高く評価

美智子妃殿下(上皇后)は、2013年10月20日79歳の誕生日の会見で、「今年は憲法の議論が盛んですが、五日市を訪ねた時「五日市憲法」に深い感銘を覚えました。



明治22年の明治憲法公布に先立ち、地域の小学校の教員、地主や農民が討議を重ねて書き上げた民間の憲法草案で、基本的人権の尊重、教育の自由の保障、平等、言論の自由、信教の自由、地方自治権など、204条が書かれていて、世界でも珍しい文化遺産ではないかと話されました。

美智子様にすれば、軽々しく改憲を唱えるのではなくしっかり歴史を学んでほしいと、上皇と共に暗に安倍政権による改憲の動きに異議を唱えたかったのでしょう。

ベアテ・シロタ・ゴードンと憲法24条

現憲法の条文の中でGHQから提案のものもあります。



ベアテ・シロタさんは父母がユダヤ系ウクライナ人で、ピアニストの父が東京芸術大に招かれ日本で育ちます。そこで戦前の日本女性の地位の低さや虐げられた姿を見てきました。戦後になって22歳でGHQの一員として、「両性の平等・結婚の自由」を憲法24条として提唱した功績も大きいですね。

25条「生存権」提唱の鈴木義男



鈴木義男

衆議院で日本が新たに提唱した「25条生存権」は、ワイマール憲法から学んだ進歩的な条文ですが、これは福島県白河市出身の鈴木義男の提案です。1946年8月1日帝国憲法改正案小委員会で決まりました。

9条の「戦争放棄」は幣原喜重郎首相が提案してマッカーサーを感激させ、決してGHQからの押し付けではありません。秘書だった平野三郎も本の中で証言しています。そして9条の条文に「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」を加えたり、「これを保持しない」「これを認めない」と強く言い切る表現も鈴木義男の提言です。

明治憲法は56年、現憲法は77年

明治の「大日本帝国憲法」は1890(明治23)年11月29日施行で1947(昭和22)年5月2日までで施行期間は56年間。現在の「日本国憲法」は1947年5月3日施行で今年でもう77年になります。ずっと長く日本人の生活を支えてくれていて、すっかり国民に定着しています。安易な「押し付け憲法」などという意見に惑わされないようにしたいものです。

(文責・事務局 山崎健一)

参考

○鈴木安蔵については、鈴木安蔵に直接師事された立正大学名誉教授の金子勝著『日本国憲法と鈴木安蔵』八潮社¥1200E 金子勝氏は本会会員。たびたび小高区で講演をされています。

○五日市憲法については、鈴木富雄著『今、五日市憲法草案が輝く・改訂版』¥400 自由民権運動や千葉卓三郎のこと、また鈴木安蔵についても大変分りやすい解説です。

○新井勝紘著『五日市憲法』岩波新書¥820+税も、五日市憲法が深沢家の蔵から発見される様子や千葉卓三郎の探索などが推理小説のように記述されています。

○鈴木義男については、昨年2023年1月の新刊、東北学院名誉教授の仁昌寺にしようじ正一著『平和憲法をつくった男 鈴木義男』筑摩書房 ¥1980 が分りやすい。

安蔵と義男は福島の二人の鈴木

